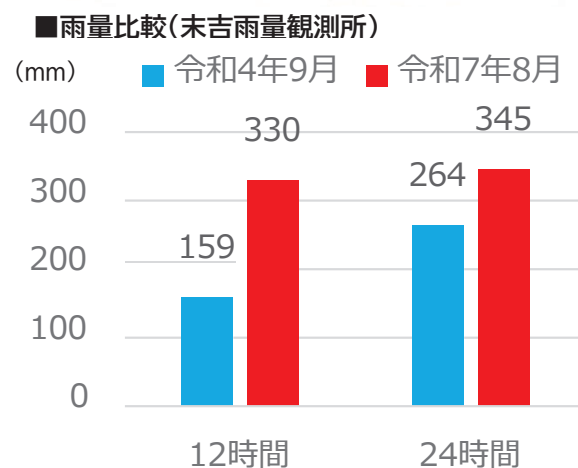
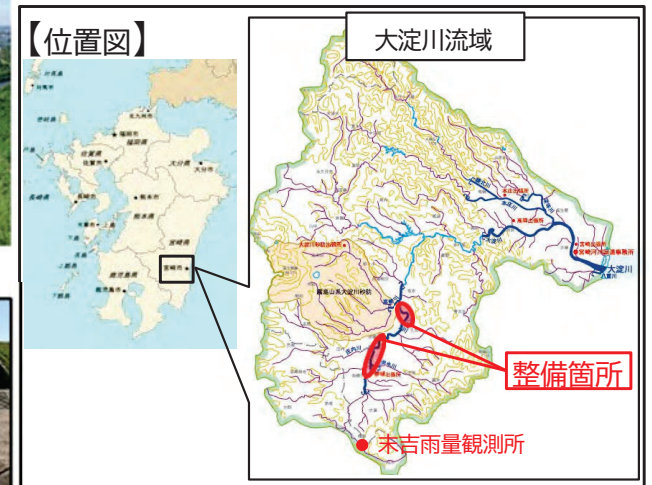
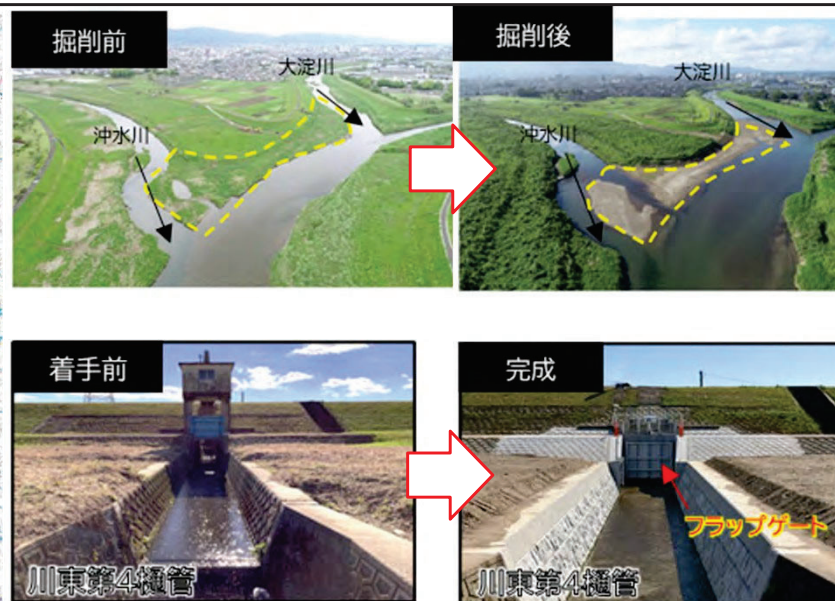


令和7年8月7日からの大雨における河川整備による治水効果(大淀川水系大淀川・沖水川)

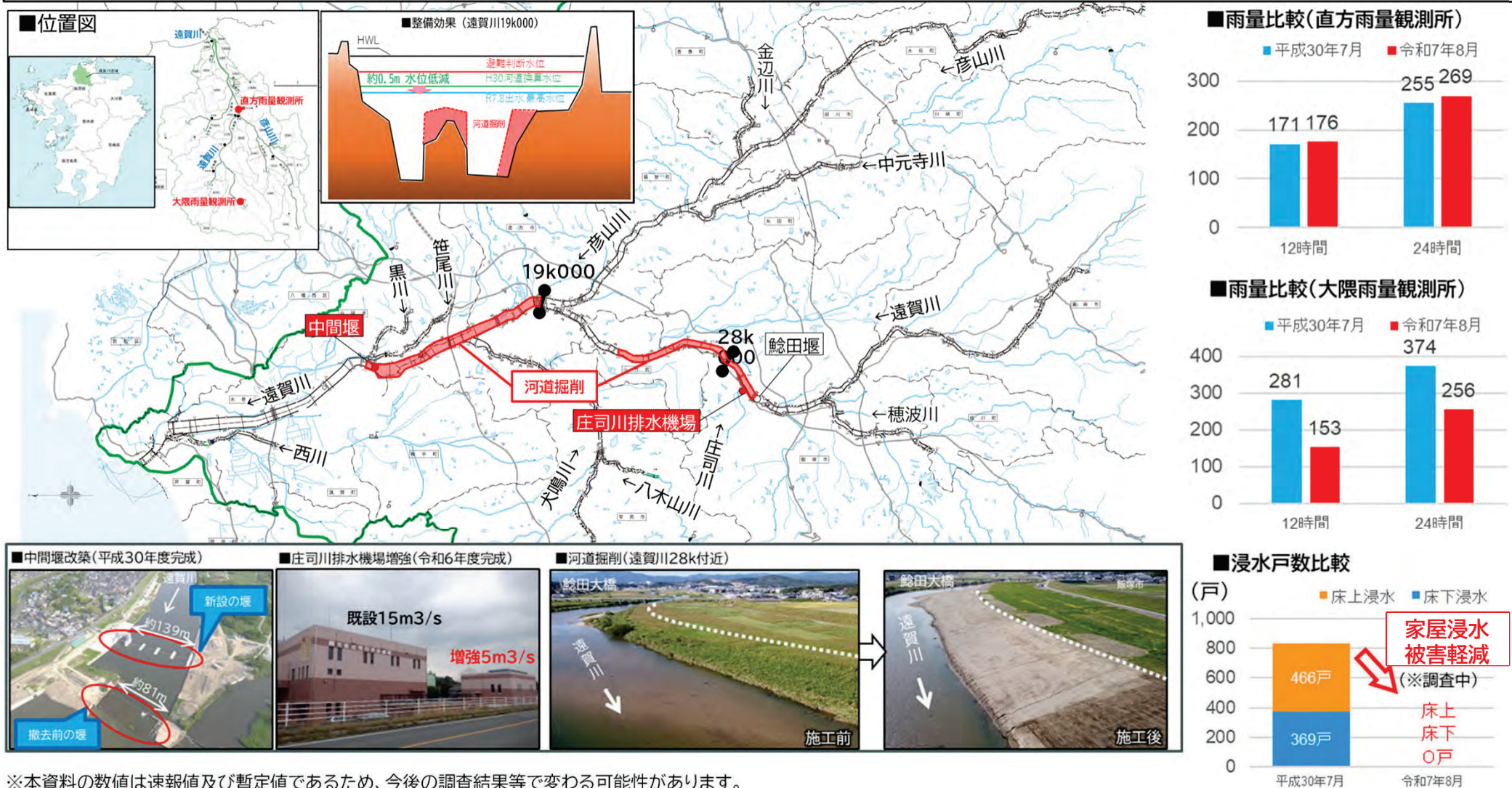
速報値

- 令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて、九州地方で広く大雨となり、大淀川水系大淀川流域の末吉雨量観測所では24時間雨量345mmを記録。
- 令和4年9月台風14号による浸水被害を契機として、河道掘削(12万m³)や樋管ゲートの無動力化を実施。
また、雨水対策施設等の整備や流出抑制対策の促進など国・県・市が連携した取組を実施中。
- 令和4年9月台風14号では、床上浸水182戸、床下浸水22戸の内水被害が発生したが、令和4年9月洪水を上回る雨量を観測した今次出水においては、これら河川改修の効果を発揮することで家屋浸水被害が大幅に軽減(床上浸水1戸、床下浸水1戸)。(令和7年8月21日時点)



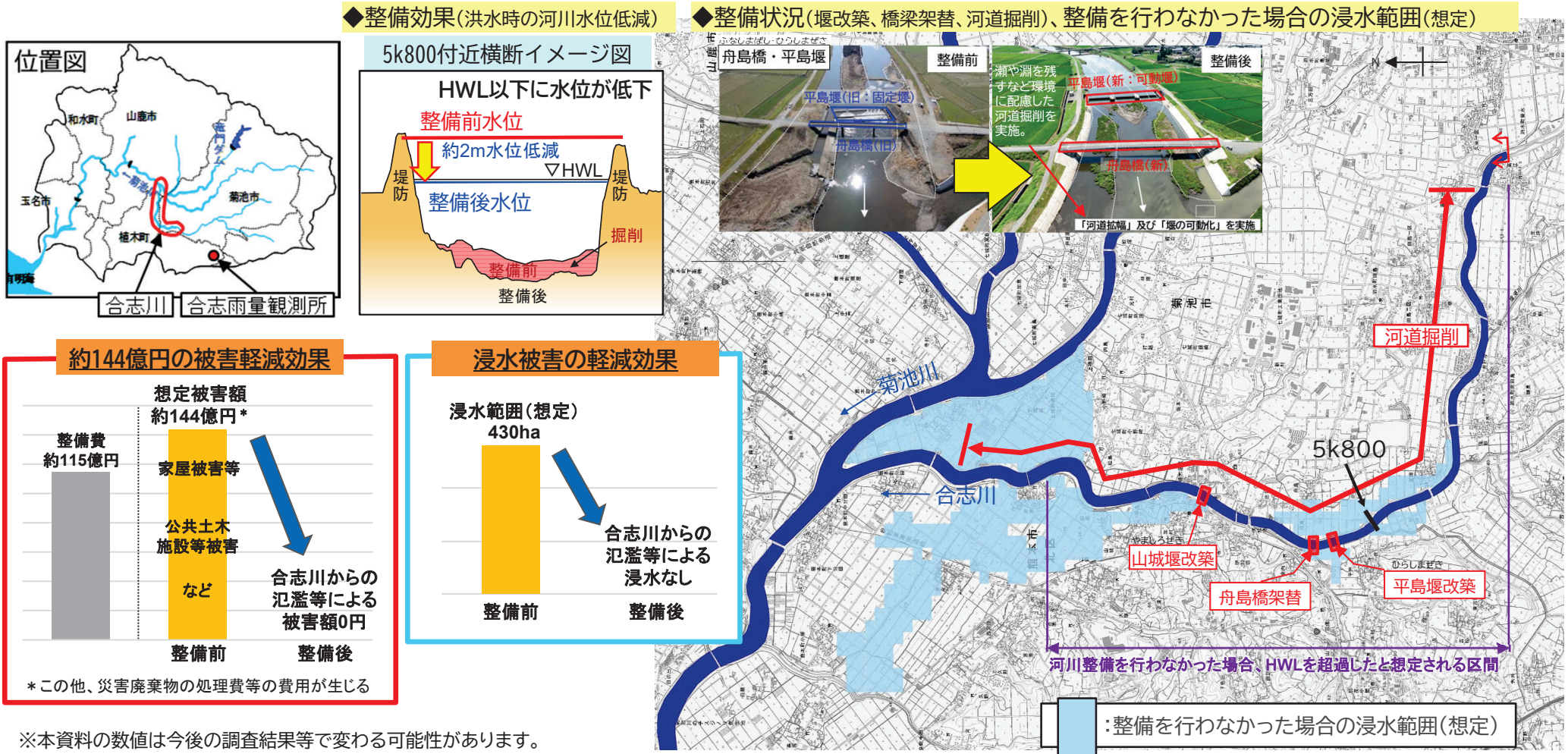
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果等で変わる可能性があります。

- 令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて、九州地方で広く大雨となり、遠賀川水系遠賀川の直方雨量観測所では24時間雨量269mmを記録。
- 遠賀川では、平成30年7月出水以降、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などにより、堰改築や河道掘削(約90万m³)等を実施。
- 今次出水では、これらの河川改修により本川においては約50cmの水位低減効果を発揮し、この遠賀川本川の水位低減効果により、氾濫危険水位を超過した支川の筈尾川、八木山川においても水位の低減に寄与したものと想定される。なお、今次出水は、平成30年7月出水の雨量に対して、中流域の雨量は多少多かったものの、上流域の雨量は比較的少なかったところであり、浸水被害も確認されていない。(令和7年8月21日時点)



速報値 令和7年10月

- 「令和7年8月6日からの大雨」において、九州地方では、特に令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて広く大雨となり、菊池川水系合志川流域内の合志雨量観測所(熊本県合志市)において、24時間雨量362mmを記録。
- 合志川では、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などにより、山城堰及び平島堰の改築や河道掘削(約44万m³)等を集中的に実施(整備費:約115億円)。
- これらの整備により、今回の大雨において、平島堰付近(5k800付近)で約2mの水位低減効果を発揮するなど、整備を実施した一連区間で水位を低減し、合志川からの氾濫等による浸水被害を防止(想定被害額 約144億円を軽減)。



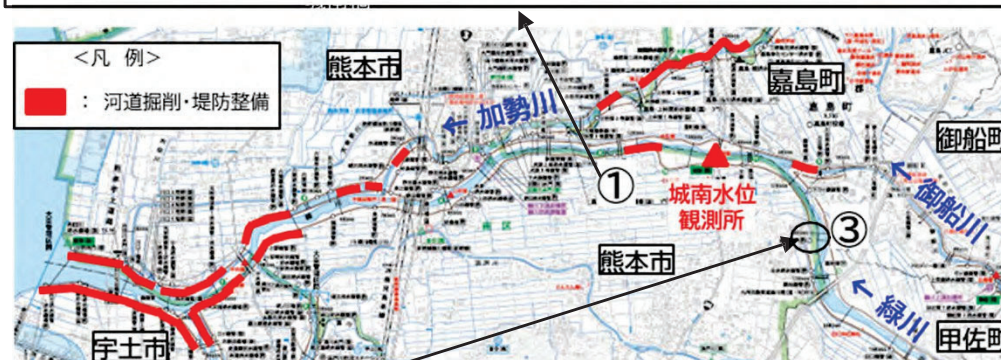
※本資料の数値は今後の調査結果等で変わる可能性があります。

- 令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて、九州地方で広く大雨となり、緑川流域の稲生野雨量観測所では24時間雨量364mmを記録し、城南水位観測所では観測史上最高水位である7.49mを記録。
- 緑川では、緑川ダムによる洪水調節を行うとともに、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」などで河川整備を進めていたことにより、城南水位観測所上流(16.4k地点)において約70cmの水位低減効果を発揮し、越水を回避。
- 仮に、これらの河川整備等が無かった場合は越水していたことが想定され、多くの浸水被害が発生していた可能性がある(被害想定:浸水面積約450ha、家屋浸水約400戸)。

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



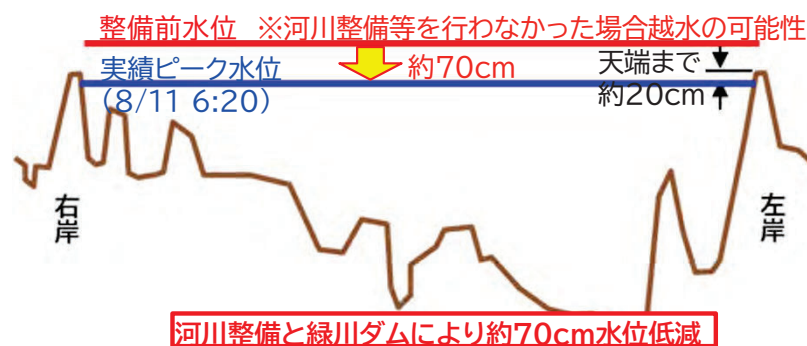
■整備実施状況(河道掘削)・・・①



■緑川ダムの貯留状況・・・②



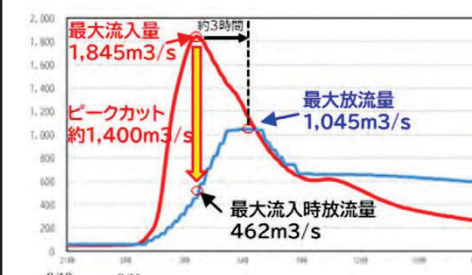
■水位低減効果(16.4k地点)・・・③



【出水の状況(8/11 14:00頃)】



【緑川ダムの洪水調節】



令和7年8月7日からの大雨における河川整備による治水効果(緑川水系加勢川)

速報値

○令和7年8月7日(木)から8月11日(月)にかけて、九州地方で広く大雨となり、加勢川流域の津森雨量観測所では、24時間雨量338mmを記録。

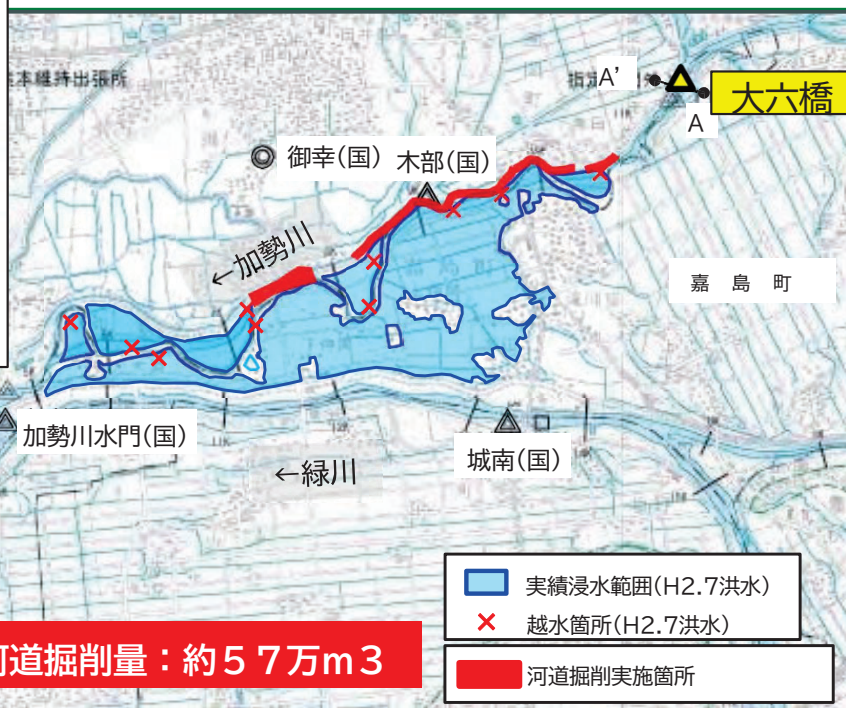
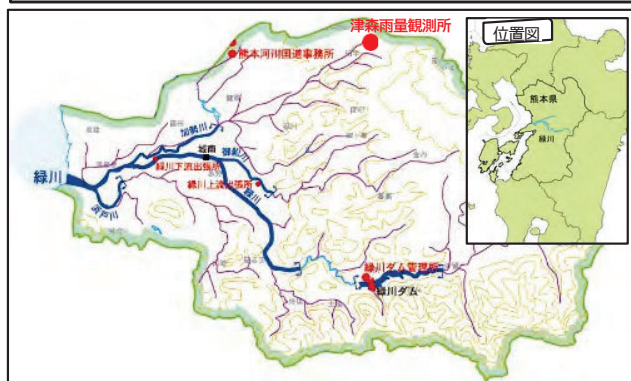
○加勢川では、「**防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策**」、「**防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策**」などにより、

河道掘削(約57万m³)を集中的に実施。

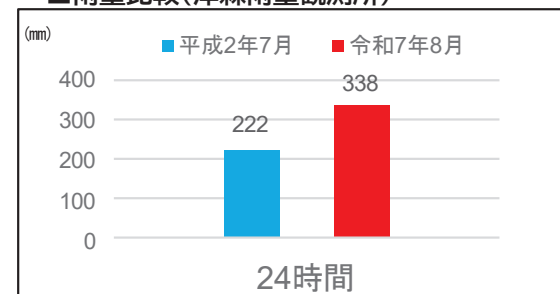
○今次出水では、これらの治水対策がなかった場合、大六橋地点において氾濫危険水位を超過することが想定されるが、治水対策により**約20cmの水**
位低減効果を発揮することで**氾濫危険水位未達**となった。

○さらに、平成2年7月出水では、床上浸水20世帯、床下浸水97世帯の浸水被害が発生したが、**平成2年7月出水を上回る雨量を観測した今次出水**
において浸水被害は確認されていない。(令和7年8月21日時点)

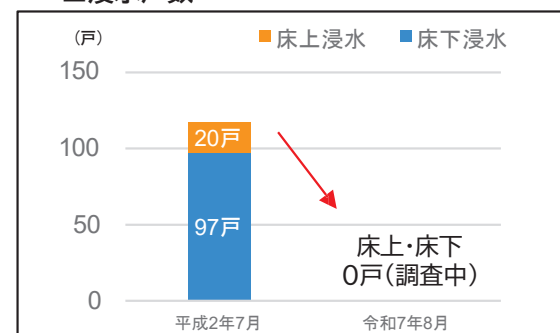
※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。



■雨量比較(津森雨量観測所)



■浸水戸数



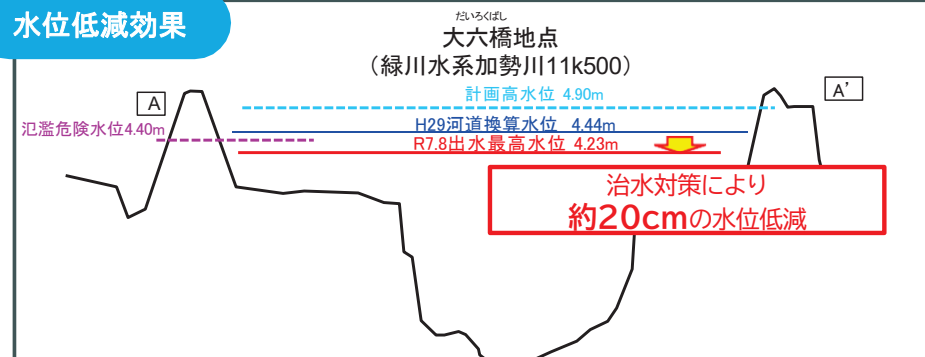
■防災・減災、国土強靱化の3か年緊急対策および5か年加速化対策による河道掘削



加勢川11k800付近 R5.6月撮影



水位低減効果



※水位低減効果の算出は、既往H/Q式を用いて算出。今後の精査・検証等により変わる可能性があります。

位置図



- 前線に伴う豪雨により、鶴田ダム上流域では215mm（8月6日2時～8月8日10時）の累加雨量を観測。
- 洪水調節により、ダム地点での最大流量の発生時刻を約3時間遅らせ、洪水の最大流量を1,320m³/sから966m³/sに低減し、ダム上流からの流量を約3割低減。
- これにより、ダム下流の宮之城水位観測所地点において約70cmの水位低減効果を発揮。

流域図

鶴田ダムの状況



下流河川へ
流した水量
最大996m³/s

約3割低減

ダムに流れてきた水量
最大1,320m³/s

サーチャージ水位:160.0m
洪水貯留後最高水位:121.34m
約673万m³(水位約6m)
を貯留
洪水貯留前の水位:115.33m

洪水調節容量
9,800万m³

鶴田ダムの貯留状況

貯留前 (8月7日18時)

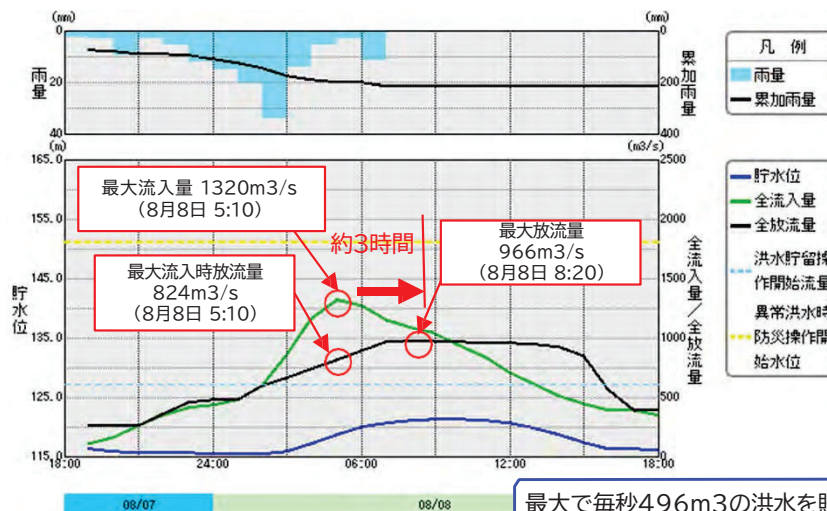


貯留後 (8月8日9時)



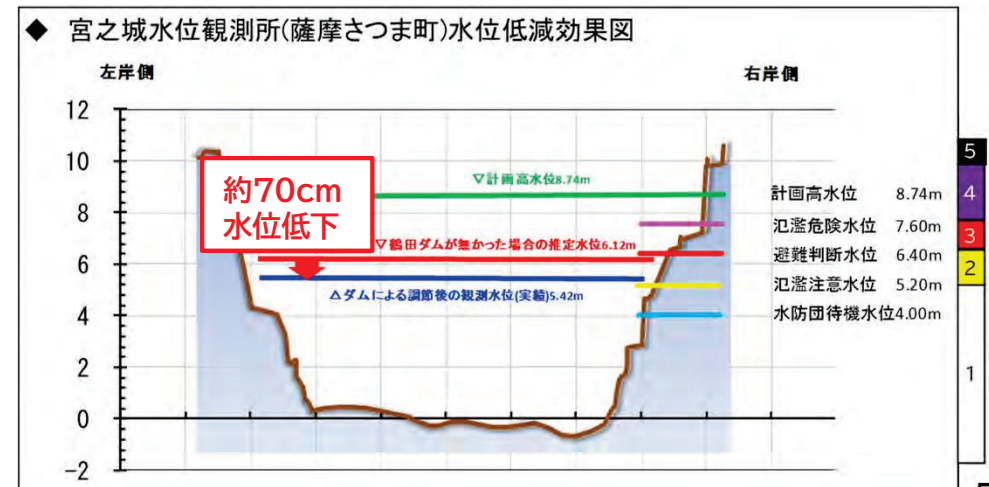
約673万m³
(水位約6m)を貯留

鶴田ダムによる洪水調節



最大で毎秒496m³の洪水を貯留し、下流河川の水位を低減

水位低減効果(宮之城水位観測所地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

位置図

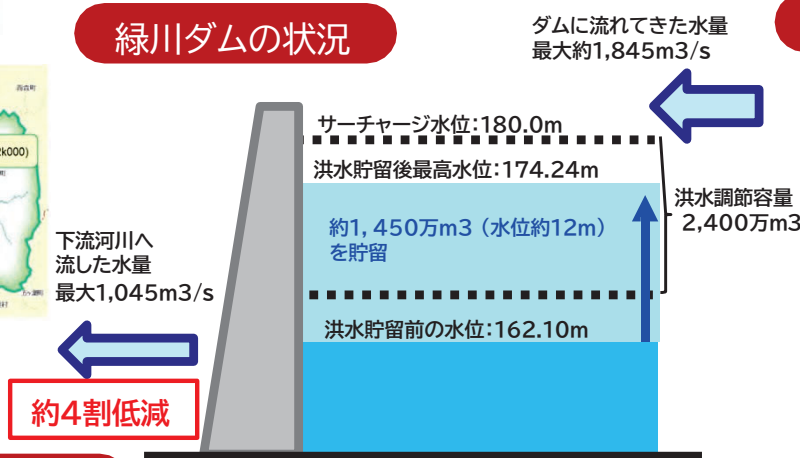


- 前線の接近により線状降水帯の発生を伴う大雨となり、緑川ダム上流域において流域平均294.4mm(8月10日15時～12日8時)の累加雨量を観測。
- 洪水調節により、ダム地点での最大流量の発生時刻を約3時間遅らせ、洪水の最大流量を約1,845 m^3/s (既往第2位)から1,045 m^3/s に低減し、ダム上流からの流量を約4割低減。
- これにより、甲佐町市街部を氾濫域に抱えるダム下流の中甲橋地点において約104cmの水位低減効果を発揮し、計画高水位(5.91m)の超過を回避。

流域図



緑川ダムの状況

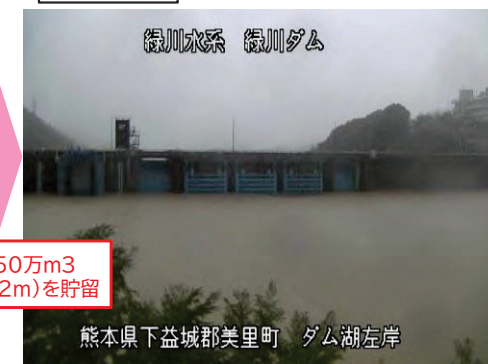


緑川ダムの貯留状況

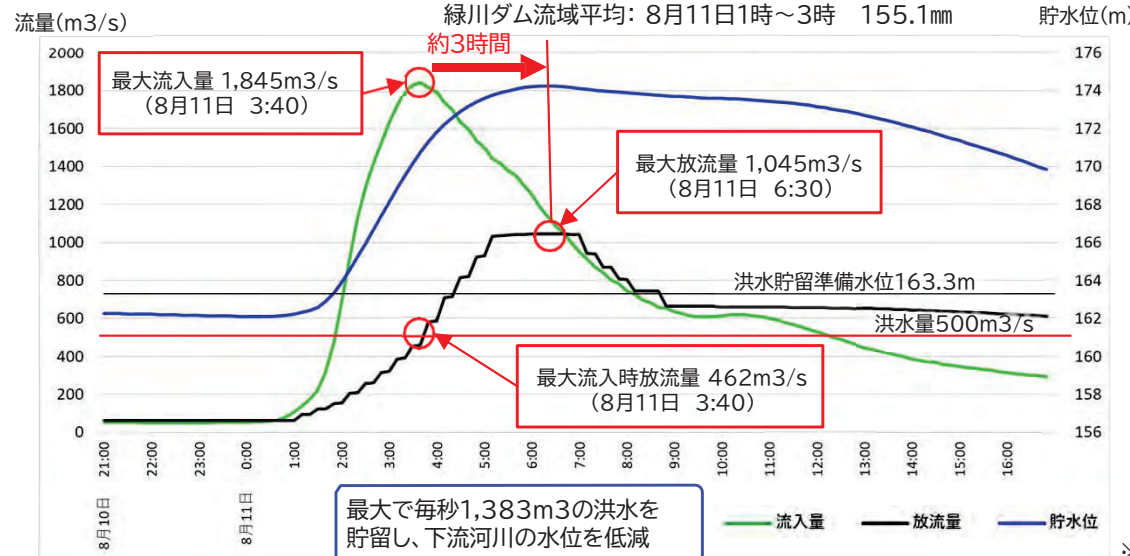
貯留前 (8月10日18時)



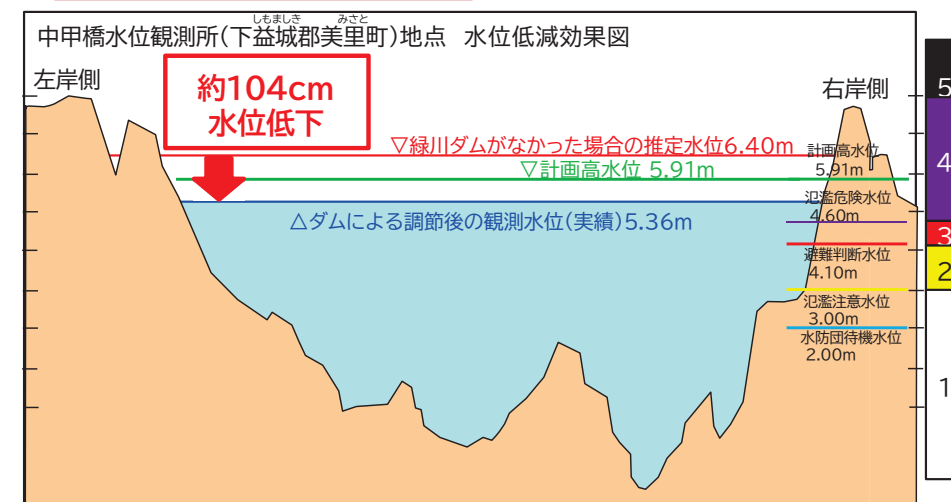
貯留後 (8月11日8時)



緑川ダムによる洪水調節



水位低減効果(中甲橋地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

位置図

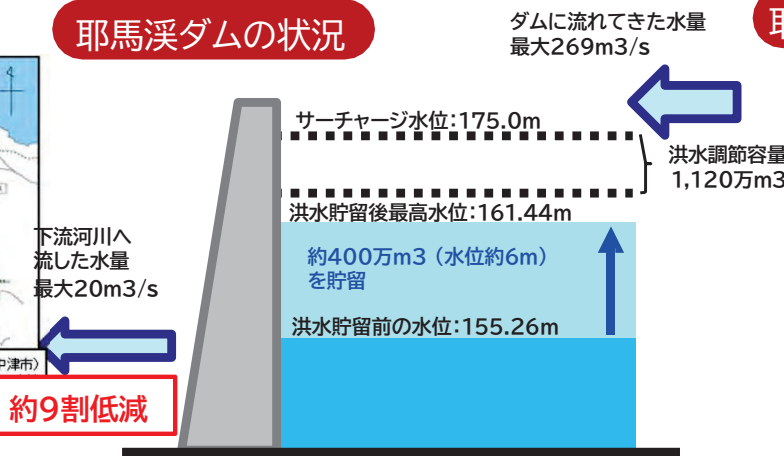


- 前線に伴う豪雨により、耶馬溪ダム上流域では200.5mm(8月9日6時～8月11日19時)の累加雨量を観測。
- 洪水調節により、ダム地点での最大流量の発生時刻を約4時間遅らせ、洪水の最大流量を269m³/sから20m³/sに低減し、ダム上流からの流量を約9割低減。
- これにより、ダム下流の柿坂水位観測所地点において約17cmの水位低減効果を発揮。

流域図



耶馬溪ダムの状況



耶馬溪ダムの貯留状況

貯留前 (8月7日13時)

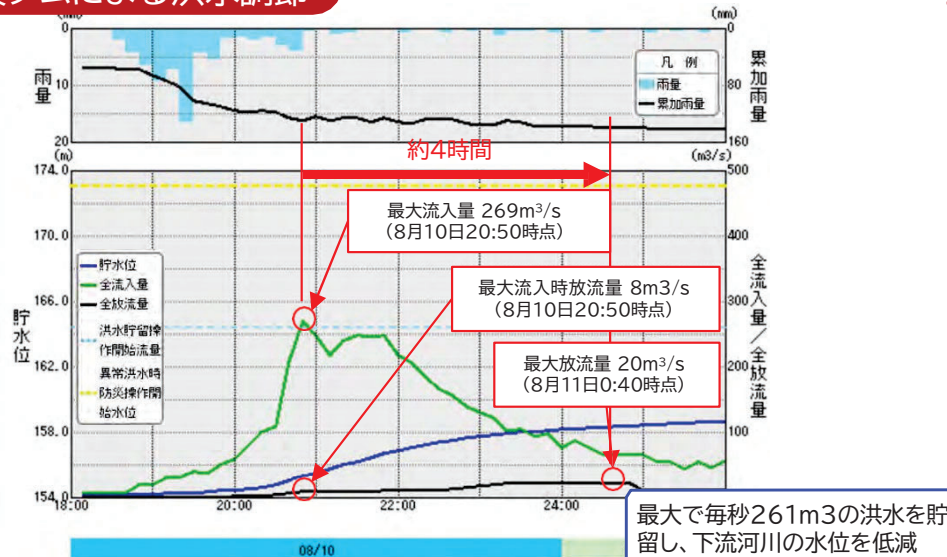


貯留後 (8月12日10時)

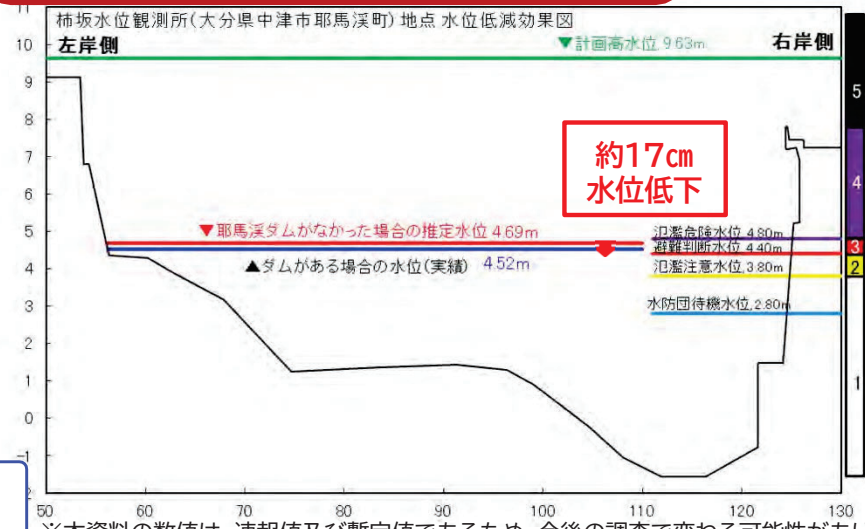


約400万m³
(水位約6m)を貯留

耶馬溪ダムによる洪水調節



水位低減効果(柿坂水位観測所地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

位置図

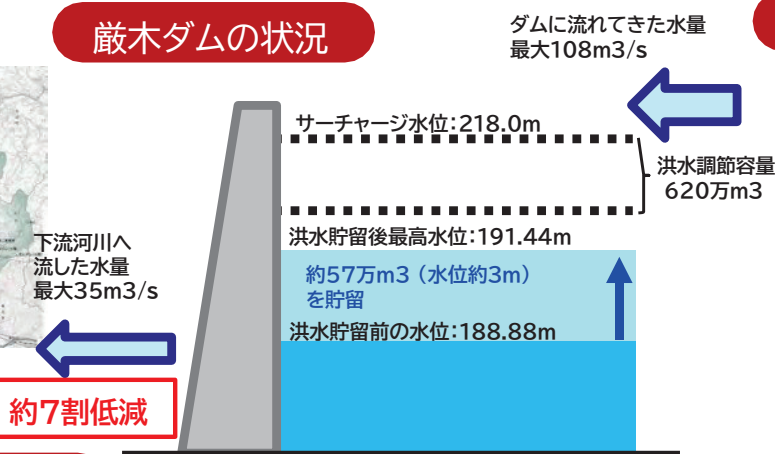


- 前線に伴う豪雨により、厳木ダム上流域では約250mm（8月9日5時～ 8月11日22時）の累加雨量を観測。
- 洪水調節により、ダム地点での最大流量の発生時刻を約1時間遅らせ、洪水の最大流量を108m³/sから35m³/sに低減し、ダム上流からの**流量を約7割低減**。
- これにより、中島橋地点において**約62cmの水位低減効果を発揮**し、避難判断水位(2.1m)の超過を回避。

流域図



厳木ダムの状況



厳木ダムの貯留状況

貯留前 (8月5日11時)

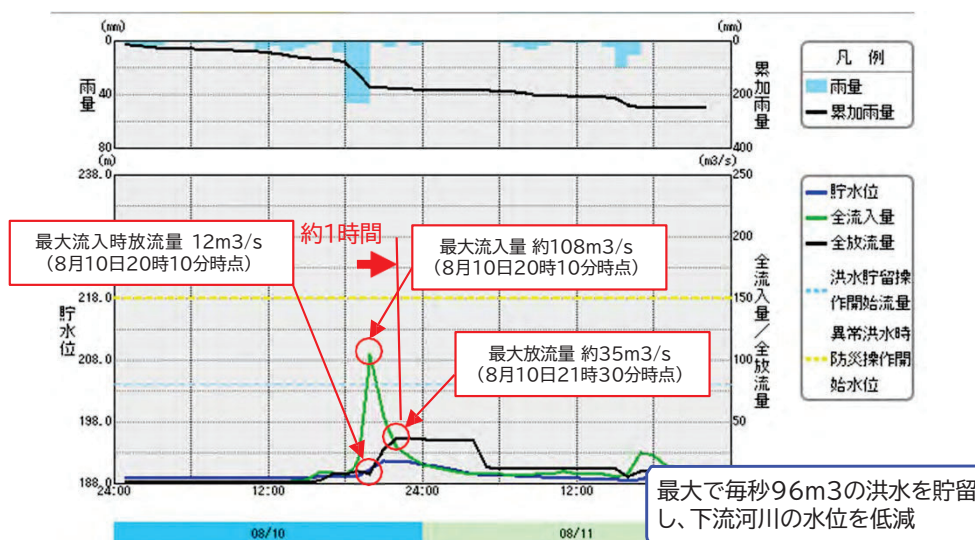


貯留後 (8月11日12時)

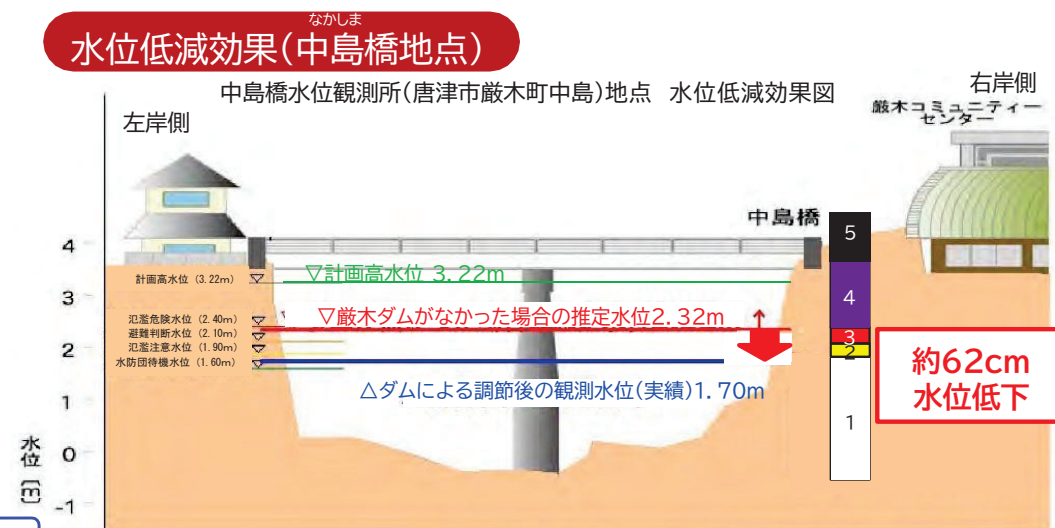


約57万m³
(水位約3m)を貯留

厳木ダムによる洪水調節



水位低減効果(中島橋地点)



位置図

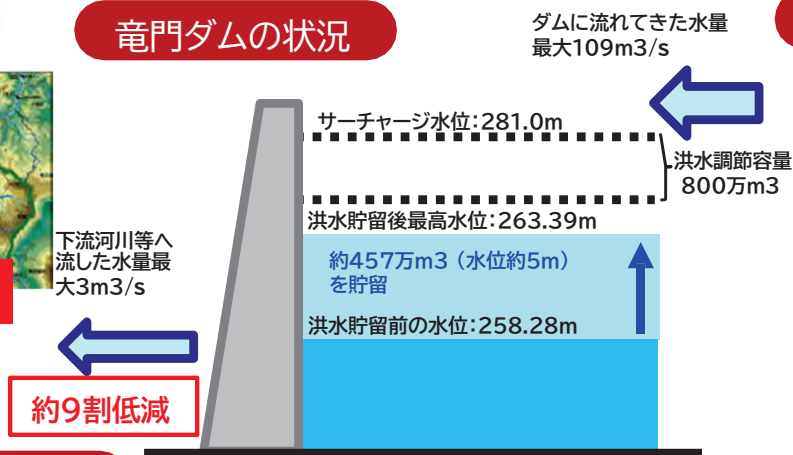


- 前線に伴う豪雨により、竜門ダム上流域では281.3mm(8月10日0時～8月12日10時)の累加雨量を観測。
- 洪水調節により、洪水の最大流量を109m³/sから3m³/s に低減し、ダム上流からの流量を約9割低減。
- これにより、ダム下流の隈府水位観測所地点において約26cmの水位低減効果を発揮。

流域図



竜門ダムの状況



竜門ダムの貯留状況

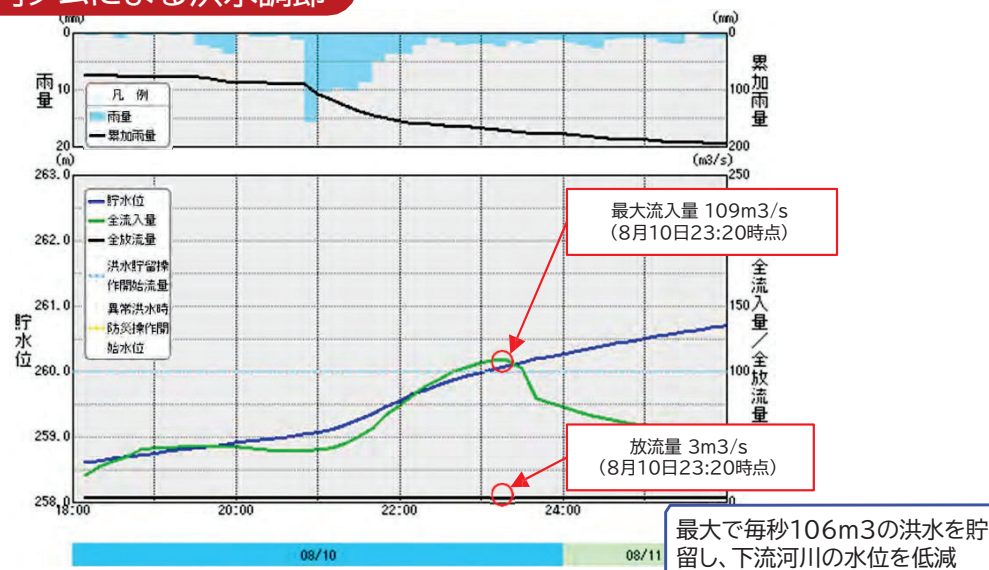
貯留前 (8月10日9時)



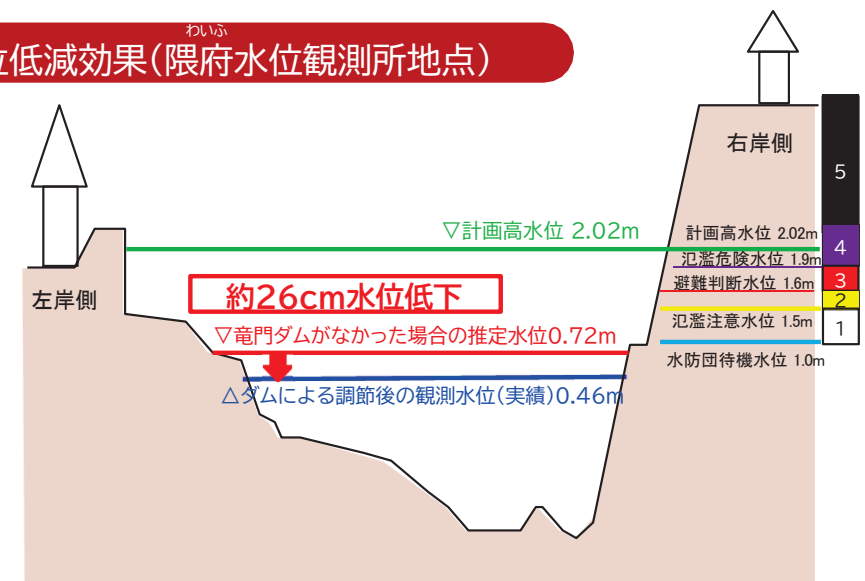
貯留後 (8月12日12時)



竜門ダムによる洪水調節



水位低減効果(隈府水位観測所地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

位置図



○前線に伴う豪雨により、阿蘇立野ダム上流域では流域平均185.5mm(8月10日22時～8月11日4時)の累加雨量を観測。

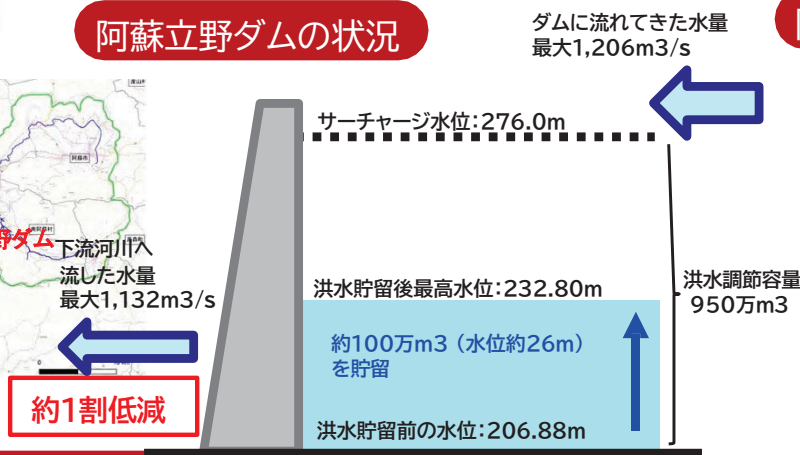
○洪水調節により、洪水の最大流量を1,206 m^3/s から1,132 m^3/s に低減し、ダム上流からの流量を約1割低減。

○これにより、ダム下流の基準地点代継橋地点において約10cmの水位低減効果を発揮。

流域図



阿蘇立野ダムの状況



阿蘇立野ダムの貯留状況

貯留前 (平常時7月下旬)

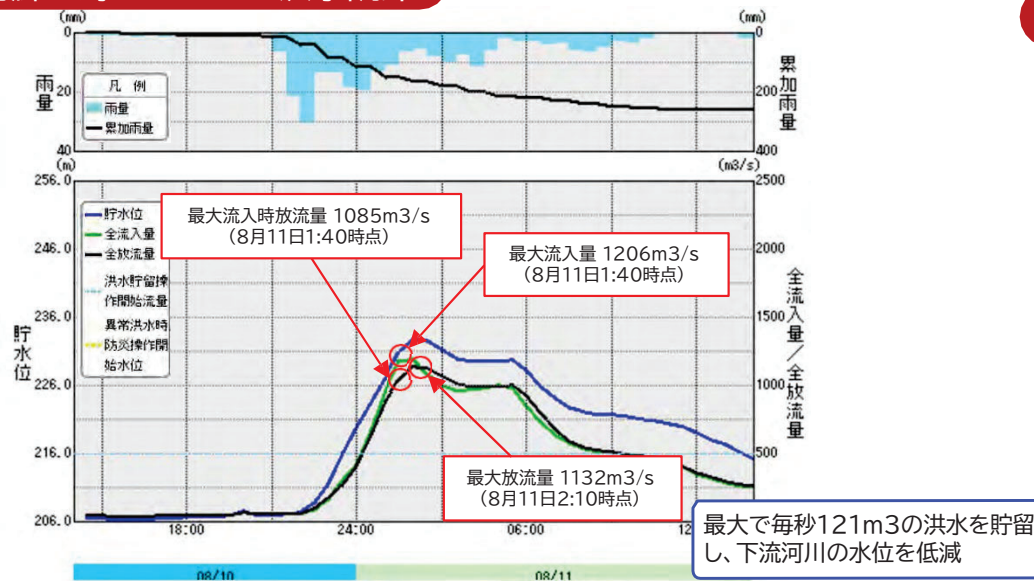


貯留後 (8月11日7時)

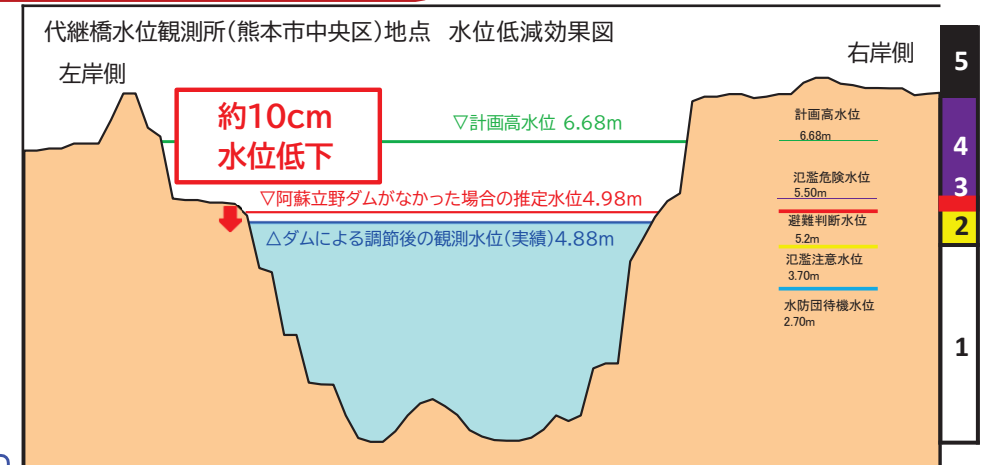


約100万 m^3
(水位約26m) を貯留

阿蘇立野ダムによる洪水調節



水位低減効果(代継橋地点)



※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

令和7年8月7日からの大雨における砂防事業による効果(桜島野尻川砂防堰堤群)

さくらじま のじりかわ

速報値

災害発生日：令和7年8月8日

降雨状況：連続雨量 114mm(8月7日18時～8日9時)

時間最大雨量 27mm(8月7日18時～8日9時)

※野尻川雨量観測所

発生箇所：鹿児島県鹿児島市野尻町野尻

発生状況：砂防堰堤等の整備が完了し、国による管理を行っている野尻川において、低気圧と前線による大雨(S58同規模の降雨)により土石流が発生したが、上流の砂防堰堤や床固工、そして下流の溪流保全工が効果を発揮し、土石流が川から溢れ出ないように、流路内を通して海まで安全に流下させた。これにより、下流地区への被害や、鹿児島市中心部と桜島を航路で結ぶ港への重要なアクセス道路である国道224号(緊急輸送道路)への被害を未然に防止した。

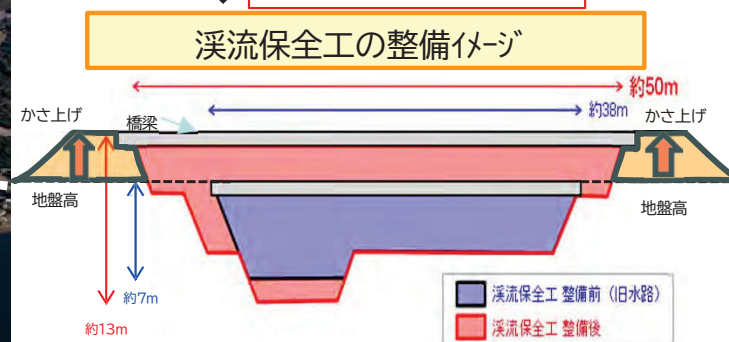


整備後も毎年の土石流で大量に土砂が堆積しているところであり、国土強靱化5か年加速化対策等により除石を実施し被害防止に寄与



日雨量 101mm/日
時間最大雨量 35mm/h

流路断面を大きくし
土石流を安全に流下



土石流は整備後の
流路内を安全に流下

※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査結果等で変わる可能性があります。